校長室だより ８・９月

2024（令和6）年8月26日
大阪市立天王寺小学校
校 長　藤 原 和 彦

１５０周年　第２章　始まる

お待たせしました。今日から2学期です。子どもたちの中には「もっと休みたいよ～っ。」と思う子もいるでしょうが、何事にも始まりがあれば終わりがあります。あきらめて気持ちを切り替えてほしいと思います。

それにしても、今年の夏休みは暑かったですね。８月の前半は、テレビをつけると、オリンピックと猛暑の話題しかやってないくらいの感じでしたが、オリンピックが終わると、地震にゲリラ豪雨に台風にと、自然災害が立て続けに加わりました。暑さについては、台風が去った後もしばらくの間は、登下校中の熱中症などに十分気をつける必要があるでしょう。ご家庭や学園では、たっぷりお茶の入った水筒と汗ふき用のハンカチ・タオルの準備、そして、毎日子どもたちがしっかり睡眠や栄養をとるなどの体調管理をお願いいたします。

さて、その2学期ですが、創立１50周年の記念イベントが目白押しです。１学期は、運動会で天小のマスコットキャラクター「かぶてんちゃん」が登場したり、卒業生の入江陵介さんに記念講演会をしていただいたりと素敵な出会いのイベントがありました。

そして、第2章となる今学期は、まず多くの子どもたちが毎日登下校に使っている地下道のリニューアルから始まります。これまで少し暗くて無機質な感じがしていた地下道を明るく楽しいものにします。先行して、夏休み中に照明を蛍光灯からより明るい LED に交換しました。今後は ON・OFF をセンサーにより自動で行うことができるような追加工事も行う予定です。そして、明るくするだけでなく、子どもたちが地下道の壁に絵を描いてにぎやかにしていきます。デザインは、本校の卒業生や、大阪芸術大学の学生さんに考えてもらっています。

続いて、児童会の取り組みでは、ペットボトルキャップアートの作成を全校児童で楽しみます。皆さんの協力で、１学期の間に必要な数のキャップが集まったようです。それを児童が考えたデザイン画に沿って作っていきます。どんな作品に仕上がるのか、とても楽しみですね。

そして、１１月２日（土）には、たくさんの来賓をお招きして、記念式典を行います。式の中では、全校児童の合唱など、子どもたちにも頑張ってもらわなければいけない所もありますが、その分お楽しみも用意しています。普段、学校でできないような「おいしい経験」をしてもらう予定です。

さらに、今年度の芸術鑑賞会は、１50周年記念行事として、関西フィルハーモニーオーケストラによるコンサートをクレオ大阪で鑑賞するなど、たくさんのイベントを子どもたちと一緒に楽しんでいきたいと思います。

これまで私は、いつも「学校において子どもはお客さんではありません。」と言っていますが、この創立１50周年の行事に関しては、子どもたちにお客さんよろしく楽しんでもらおうと思っています。何故なら、正直言って、周年行事は大人の都合

です。150周年だからと言って子どもたちに何かを強いるのではなく、イベントを一緒に楽しむことで、小学校時代に周年行事があったという思い出が作れたらいいなあと思っています。ありがたいことに、事業委員会の皆さんも、子どもたちのための周年行事をというお考えで一致されていらっしゃるので、常に学校の取り組みを支援してくださっています。

一年間で一番長い2学期ですから、終わるころには、この暑さも忘れるくらいの寒い冬が始まっているはずです。長い分だけいろいろあるでしょうが、子どもたちには楽しい思い出がたくさんできるように願っています。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

1本のスプーン

1学期の終わりに、個人懇談会に合わせて、玄関で落とし物を展示しました。毎年恒例の景色ですが、たくさん並んだ落とし物を見ていて、私が小学生の時のある経験を思い出しました。

今からもう50年くらい前の話です。私の住んでいた地域には子ども会があって、毎年夏休みになると近くの公園にテントを張って、キャンプをするという催しがありました。それに参加する子どもたちは、野外炊飯で作るカレーのために、家から米と食器をもって行くことになっていました。

その年（たぶん低学年だったと思うのですが）も、母が用意してくれたお米と食器をもって、キャンプに参加しました。キャンプは楽しく、無事に終わりを迎えました。そして、さようならのあいさつをする時のことです。指導してくれていた方が、1本のスプーンをみんなに見せて、「落とし物です。誰のかな？」と聞きました。それは、どこにでもあるような金属製の普通のスプーンでした。ぱっと見て、一瞬私が持ってきたスプーンのように思えたのですが、自分のものかどうか自信がなかったのと、みんなの前に出ていくのが恥ずかしかったので、結局名乗り出ることはできませんでした。そして、持ち主の現れないスプーンは、処分されることになりました。

家に帰ってから、自分の荷物をリュックサックから出したのですが、持って行ったはずのスプーンはありませんでした。やはり、あのスプーンは私のものだったのです。その後、持たせてくれた母にどのような言い訳をしたのかはよく覚えていないのですが、あの時名乗り出なかったことへの後悔や、悪いことをしてしまったという気持ちは、なぜか今でも記憶に残っています。

教師になった今、子どもたちに「物を大切に」と言ってはいますが、私自身は、ことさら物を大切にする人間ではありませんし、倹約家でもありません。それでも、たった1本のスプーンを失くしたことを今でも覚えているのは、なぜでしょう。それはきっと、スプーンを失ったことではなく、それを用意してくれた母への申し訳なさが心に残っているからではないのかなと思っています。

子どもたちが物を失くすことは仕方ありません。でも、失くしたその物は、お家の方や学園の先生方など、誰かが用意してくれたはずです。

さて、天王寺小学校の子どもたちには、落とし物の先にいる、それを用意してくれた「誰か」が見えているでしょうか？